

令和3年度 文化芸術による子供育成総合事業

巡回公演事業



わかりやすい字幕解説付き!

鎌倉能舞台 能楽公演

文化芸術による子供育成総合事業 巡回公演事業

我が国の一流の文化芸術団体が、小学校・中学校等において公演し、子供たちが優れた舞台芸術を鑑賞する機会を得ることにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としています。

事前のワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演では、できるだけ子供たちにも参加してもらいます。



「全ての子どもに能・狂言鑑賞の場を」これが私たちの願いです。

日本の「能楽」は、「人類の口承及び無形遺産の傑作」として2001年に宣言された、ユネスコの世界無形文化遺産です。しかし、どれだけの日本人が能・狂言を見たことがあるでしょうか？ これからの日本を作っていく子供たちに、能・狂言を見て貰い、自国の伝統芸能に対する造詣を深めて欲しい。そう私たちは考えます。

能とは

- ① 舞台：幕がなく、見物席に大きく張り出した本舞台と、楽屋との通路であるとともに第二舞台としての役割もする橋懸を持つ特殊なもの。
- ② 演出：純然たる劇というよりも、「語り物」としての色彩を強く残し、又一面舞踊劇・音楽劇の要素も強い。色々な約束ことも多いため、かなりの予備知識を必要とする。
- ③ 謡曲：能のセリフと歌を謡曲と言い、日本語としても完成された発声法と独特な音階を持つ。中世の日本語をほとんど正確に伝えていると考えられ、発音・用法、文法などを調べる上に貴重な資料となっている。
- ④ 能面：能の主役(シテ)は原則として仮面をつける。これは素顔ではとても表現できない強さ・恐ろしさ、美しさ・気高さを的確に現わせるために、ほかのあらゆる不便をしのいで使用している。

能は今から約六百年前、室町初期に観阿弥世阿弥という父子の天才によって大成された現存世界最古の演劇です。しかも江戸時代の支配階級である武家の式楽として大切に保護成熟され、主要な演法・台本、装束道具類もほとんど草創当時のままだに正確に、しかも恵まれた環境のなかで磨き抜かれ、深められて今日に伝えられている、非常に貴重な文化財です。

公益財団法人鎌倉能舞台とは

団体紹介

ユネスコの世界無形文化遺産として初めて宣言された、日本の伝統芸能「能楽」の公開・振興をもって文化に寄与することを目的に、昭和45年、神奈川県下の古都鎌倉に設立され、平成23年に公益財団法人の認定を受けました。ハード面としての「鎌倉能舞台」は鎌倉市長谷、大仏の近くに自前の能舞台を構え、能楽の公演、お稽古場としての使用、能楽博物館としての能舞台公開など、施設を運営しております。ソフト面としての「鎌倉能舞台」は、長谷の鎌倉能舞台、横浜能楽堂、国立能楽堂を使用しての主催公演「能を知る会」の他、学生のための能狂言公演、体験活動などの学生向け公演、また、新能や市民能等の受託公演等、さまざまな能の公演を行っております。



～10月1日は「国際音楽の日」です～

1977年にユネスコの要請で設立された国際音楽評議会という会議で、翌年の1978年から毎年10月1日を、世界の人々が音楽を通じてお互いに仲良くなり交流を深めていくために「国際音楽の日」とすることとしました。日本では、1994年から毎年10月1日を「国際音楽の日」と定めています。

制作・公演団体



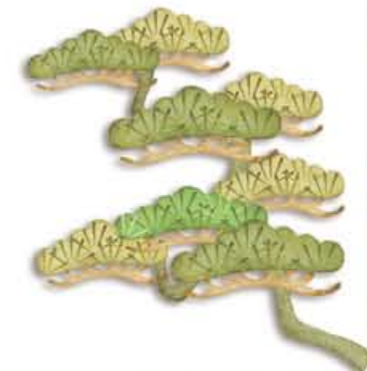
〒248-0016 神奈川県鎌倉市長谷3-5-13 TEL/FAX.0467-22-5557 URL.http://www.nohbutai.com E-mail.webmaster@nohbutai.com

番組

能楽ではプログラムのことを「番組」といいます。
 今日、「解説」→「狂言」→「休憩」→「能」→「体験」→「質疑応答」
 の順番に進んでいきます。（公演時間100分）

始まりのご挨拶

解説 狂言と能をいよいよ見るぞ！



狂言鑑賞

柿山伏

■出演者
 シテ 山伏、アド 畑主



あらすじ

修行を積んだ山伏も人の子、腹が減れば食べ物欲しくなる。枝もたわむる柿に誘惑されて、登って食べていたら、畑主に見付かる。いまいまして畑主は、烏よ猿よ鳥よと山伏をからかう。思わず木から飛び降りた山伏は、したたかに腰を打って腹を立て、看病せよと祈り始める。さて効験のほどは……
 厳しい修行を積み「法力」と言われる特別な力を持ったお坊様で、お寺には住まず全国を旅しながらそのお経の力を人々に教えている人達です。能では立派な人を、狂言ではちよこネジが緩んでいるだらしない山伏がイメージされています。

山伏とは？

能鑑賞

小鍛冶

■出演者
 前シテ 童子
 後シテ 稲荷明神
 ワキ 三條宗近
 ワキシテ 橋道成
 アイ 宗近ノ下人



あらすじ

都で名高き刀鍛冶、三條宗近の家に帝の勅使、橋道成が訪ねてくる。道成は、宗近に剣を打たせよという夢の告を受けた帝から、剣を打てとの命令を伝えに来た、と話す。
 宗近は「大変光栄なお話ですが、今は相鎧を勤める技量の者がありませぬ」と断る。しかし帝からの勅命には逆らえず、宗近はこの注文を引き受ける。困り果てた宗近……これは神仏にすがるか無いかと思ひ、氏神の稲荷明神へ参詣に向かう。
 すると二人の少年が声を掛け「今、帝から剣の依頼を受けましたね」と話し、驚く宗近に近づき、唐・日本の名剣の物語を語る。そして、「必ず相鎧が現れ、今まで以上の名剣を打つことが出来ますから、準備をして待っていて下さい」と伝えて稲荷山の方に姿を消す。
 宗近が祭壇を飾り、準備をして待っていると稲荷明神のお使いである狐が現れる。狐は宗近の相鎧を勤め、名剣「子狐丸」を打ち上げて天下泰平・国土安穩の守りとして剣を道成に渡し、雲に乗って稲荷山の彼方に帰って行く。

誦で参加

狂言体験ワークショップ

狂言の先生に狂言の動きを教えて貰おう！

質問コーナー

疑問に思ったことはすぐに解決！
 能楽師がお答えします。



能と狂言

能と狂言はセットで上演されるもので、「能」が「囃子方」と言うオーケストラと「地謡」と言うコーラスを伴った「ミュージカル」的な演劇で、人間の感情「喜怒哀楽」の「怒（いかり）」「哀（かなしみ）」をテーマとした物語が多いのに対して、「狂言」は役者の表現、表情、台詞で見せる「芝居」として「喜（よろこび）」「楽（たのしみ）」をテーマとした演劇です。

狂言は主役である「シテ」と相手役の「アド」がお互いの台詞や動きで物語を進め、「笑いの芸術」と言われるように、大げさな動きや顔の表情を使って観客の笑いを誘います。「柿山伏」では、柿の実を石を投げて盗ろうとしたり、木に登って盗み食いをして見つかったのを誤魔化すために、動物の物真似をしたりしますが、簡単そうに見えても厳しい稽古（訓練）を受けていないと上手には出来ないものです。

能は「能面」を使う事が多く、顔の表情では無く面の角度で表情を見せます。その動きは静かな中に力強さがあるもので、「一つ一つの動きに」「型」と言う決まりがあり、無駄の無い最小限の動きで演技を行います。「シテ」と言う主役を、相手役の「ワキ」や「囃子方」「地謡」が協力して、一つの作品を創り上げます。「小鍛冶」では、「困ったときの神頼み」をテーマに、前半は少年の姿で過去に作られた名剣の物語を「仕方話」に見せ、後半は狐の姿で現れ、宗近の手助けをして名剣を打ち上げる。お稲荷様を宣伝するために作られた曲です。



動きが速くて楽しい「狂言」と、じっくりとした動きで悲しかったり怖かったりする「能」を順番に見る事でお客様に「一つの演劇を楽しんで頂く」ことが出来ます。